

**CASBEE-建築(新築)2016年版**  
九州ろうきん本店ビル新築工事

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版

欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

スコアシート		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>3.8</b>
<b>Q1 室内環境</b>					<b>0.39</b>			<b>3.6</b>
<b>1 音環境</b>				<b>3.2</b>	0.15			<b>3.2</b>
1.1 室内騒音レベル				<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>		
1.2 遮音				<b>3.0</b>	0.40			
1 開口部遮音性能				3.0	0.60	3.0		
2 界壁遮音性能				3.0	0.40	3.0		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	-	3.0		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	3.0		
1.3 吸音		天井は岩綿吸音板、床はタイルカーペットとし、吸音効果を図った		<b>4.0</b>	0.20	<b>3.0</b>		
<b>2 温熱環境</b>				<b>3.3</b>	0.35			<b>3.3</b>
2.1 室温制御				<b>3.7</b>	0.50			
1 室温				3.0	0.38	3.0		
2 外皮性能				3.0	0.25	3.0		
3 ゾーン別制御性		空調室内機は冷暖フリーとし、各機器ごとに操作リモコンを設置した		5.0	0.38			
2.2 湿度制御				<b>3.0</b>	0.20	<b>3.0</b>		
2.3 空調方式				3.0	0.30	3.0		
<b>3 光・視環境</b>				<b>4.2</b>	0.25			<b>4.2</b>
3.1 昼光利用				<b>4.0</b>	0.30			
1 昼光率		昼効率=2.04%		4.0	0.60	3.0		
2 方位別開口					-	3.0		
3 昼光利用設備		ハイサイドライトで共用部へ昼光利用できるようにした		4.0	0.40	3.0		
3.2 グレア対策				<b>4.0</b>	0.30			
1 昼光制御		ブラインド・庇を設けた		4.0	1.00	3.0		
3.3 照度		全般照明で500Lx以上を確保した		<b>4.0</b>	0.15	<b>3.0</b>		
3.4 照明制御		執務室には人感・昼光兼用センサーを配置した		<b>5.0</b>	0.25	<b>3.0</b>		
<b>4 空気質環境</b>				<b>3.7</b>	0.25			<b>3.7</b>
4.1 発生源対策				<b>4.0</b>	0.50			
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆をほぼ全面的に使用		4.0	1.00	3.0		
4.2 換気				<b>3.3</b>	0.30			
1 換気量				1.0	0.33	3.0		
2 自然換気性能		自然換気可能な有効開口窓を設けた		4.0	0.33	3.0		
3 取り入れ外気への配慮		臭気の発生する通気開放位置は外気取入れ口から離して設けた		5.0	0.33	3.0		
4.3 運用管理				<b>3.5</b>	0.20			
1 CO <sub>2</sub> の監視		センサーによる人員検知で換気の変風量を制御を行う計画とした		4.0	0.50			
2 喫煙の制御				3.0	0.50			
<b>Q2 サービス性能</b>					<b>0.30</b>			<b>3.7</b>
<b>1 機能性</b>				<b>4.0</b>	0.40			<b>4.0</b>
1.1 機能性・使いやすさ				<b>3.6</b>	0.40			
1 広さ・収納性		1人当たりの執務スペースを9㎡以上とし、ゆとりのある空間とした		4.0	0.33	3.0		
2 高度情報通信設備対応				3.0	0.33	3.0		
3 バリアフリー計画		福祉まちづくり条例の整備基準を満たしている		4.0	0.33			
1.2 心理性・快適性				<b>4.6</b>	0.30			
1 広さ感・景観		天井高さ=2.7m 執務室には窓を配置		4.0	0.33	3.0		
2 リフレッシュスペース		リフレッシュスペースを広く取ることで快適性の向上を狙った		5.0	0.33			
3 内装計画		インテリアの計画も考慮し、設計を行った		5.0	0.33			
1.3 維持管理				<b>4.0</b>	0.30			
1 維持管理に配慮した設計		清掃のしやすさやメンテナンスを考慮した仕上の選定を行った		5.0	0.50			
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50			
<b>2 耐用性・信頼性</b>				<b>3.8</b>	0.30			<b>3.8</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振				<b>4.2</b>	0.50			
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		建基法の1.25倍の耐震性を有する様に設計した		4.0	0.80			
2 免震・制震・制振性能		柱頭免震にて建物全体を免震建物とした		5.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数				<b>3.4</b>	0.30			
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.20			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		主要仕上は20年以上の耐用年数とする材料にした		5.0	0.10			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		屋外ダクトにはガルバリウム鋼板を使用した		5.0	0.10			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.20			
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20			
2.4 信頼性				<b>3.8</b>	0.20			
1 空調・換気設備		災害対策室想定3階会議室は空調、換気設備の二重化を図った		4.0	0.20			
2 給排水・衛生設備		節水器具採用、緊急時排水槽の設置、水槽の二層化を図った		5.0	0.20			
3 電気設備				3.0	0.20			
4 機械・配管支持方法		耐震クラスAにて施工する計画とした		4.0	0.20			
5 通信・情報設備				3.0	0.20			

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.3</b>	0.30	-	-	<b>3.3</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>4.0</b>	0.30	-	-	
1 階高のゆとり		主要執務室のある2階以上の階高を3.9m以上とした	4.0	0.60	-	-	
2 空間の形状・自由さ		壁長さ比率=0.255	4.0	0.40	-	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.31</b>	-	-	<b>4.2</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>		敷地前面を前庭空間とし、緑化にて景観に配慮した	<b>5.0</b>	0.40	-	-	<b>5.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>4.5</b>	0.30	-	-	<b>4.5</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		事前に利用する社員からアンケートを取り、設計に反映させた	<b>5.0</b>	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		緑化スペースを設ける事で暑熱環境緩和を図った	<b>4.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>4.0</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>4.7</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>		BPI <sub>m</sub> =0.82	<b>4.8</b>	0.17	-	-	<b>4.8</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>		ハイサイドライトにより自然採光、換気のできる計画とした	<b>4.0</b>	0.10	-	-	<b>4.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>		[BEI][BEIm] = 0.57	<b>5.0</b>	0.52	-	-	<b>5.0</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>4.5</b>	0.21	-	-	<b>4.5</b>
集合住宅以外の評価			<b>4.5</b>	1.00	-	-	
4.1 モニタリング		照明、空調、換気、給湯等の消費電力がモニタリングできる計画とし	5.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制		省エネ計算により、エネルギー消費量の目標を設定した	4.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.5</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.4</b>	0.20	-	-	<b>3.4</b>
1.1 節水		節水型便器を採用した	<b>4.0</b>	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>3.8</b>	0.60	-	-	<b>3.8</b>
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		地下駐車場は既存躯体を利用する計画とした	5.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		解体時に分別しやすい様、躯体に直接仕上げはしない仕様とした	5.0	0.20	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
3.1 有害物質を含まない材料の使用			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			<b>3.0</b>	0.70	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			3.0	0.50	-	-	
3 冷媒			3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.5</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		LCCO2を抑えた計画とした	<b>4.2</b>	0.33	-	-	<b>4.2</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>3.5</b>	0.33	-	-	<b>3.5</b>
2.1 大気汚染防止		燃焼機器の使用無し	<b>5.0</b>	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			<b>3.2</b>	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制		駐車場出入口を通りの少ない方をメインとし、渋滞緩和を図った	5.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			2.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.33	-	-	<b>3.0</b>
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	0.33	-	-	
2 振動			3.0	0.33	-	-	
3 悪臭			3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制			3.0	-	-	-	
3 日照阻害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			<b>3.0</b>	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			3.0	0.70	-	-	
2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	